目次

ビジョン

雪印メグミルクグループの存在意義および社会的使命（ミッション）を定めた企業理念、ミルク未来創造企業、消費者重視経営、そして新たに設定した企業行動憲章を紹介します。

2 雪印メグミルクグループ 企業理念
3 雪印メグミルクグループ 企業行動憲章
5 雪印メグミルクのあゆみ
7 目指す未来

マネジメントメッセージ

グループを取り巻く様々な環境の変化に対応し、持続的成長を目指すトップとしての思いや方針、戦略を説明します。

9 トップメッセージ
17 財務担当役員メッセージ

ハイライト

事業戦略や経営活動による財務情報、持続的成長を実現するための非財務情報の過去5年間の実績をグラフで示します。また、コロナ禍における雪印メグミルクグループの対応を説明します。

19 業績ハイライト
21 新型コロナウイルス感染症への対応

特集

社会課題である健康寿命の延伸に貢献する機能性たんぱく質「MBP®」の今後の成長戦略について説明します。

23 MBP®のこれから

価値創造の仕組み

経営資源の活用により創り出した価値を顧客・市場に提供するためのプロセスや、安全で安心していただける商品の研究開発から販売までの流れ、事業別の戦略や方向性を説明します。

27 価値創造プロセス
29 バリューチェーン
33 事業概要
34 主なグループ会社
37 分野別事業概況

CSR重要課題（マテリアリティ）

CSR経営の実現に向けて改正したCSR方針およびKPIの2020年度実績を報告します。また、個々の重要課題の解決に貢献し、価値創造を支える取組みを紹介します。

43 CSR重要課題（マテリアリティ）
45 乳（ミルク）による食と健康への貢献
46 持続可能な酪農への貢献
47 環境負荷の低減
51 多様な人材が活躍できる職場の実現
55 地域社会への貢献

コーポレート・ガバナンス

CSR経営の根幹となるコーポレート・ガバナンスを構築する体制や、CSR、コンプライアンスを推進するための仕組みや活動を説明します。

57 コーポレート・ガバナンス
65 CSR推進
66 コンプライアンス
68 リスクマネジメント

コーポレートデータ

経営成績を財務データや財務諸表を用いて報告するとともに、会社・投資家情報を紹介します。

69 経営成績・財務分析
71 連結財務諸表
73 会社・投資家情報

雪印メグミルクグループ 企業理念

雪印メグミルクグループの企業理念は、
「私たちの使命」と「コーポレートスローガン」で構成します。

私たちの「3つ」の使命

私たち雪印メグミルクグループは、
3つの使命を果たし、
ミルクの新しい価値を創造することにより、
社会に貢献する企業であり続けます。

消費者重視経営の実践 P.7

雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた
「消費者の権利」と「事業者の責務」をしっかりと認識し、

- 安全で安心していただける商品・サービスを提供すること
- 可能な限りの情報提供、情報開示を行うこと
- 消費者の声を傾聴し、経営に反映していくこと
- 危機管理の体制を整え、不測の事態に迅速かつ適切に対応していくこと

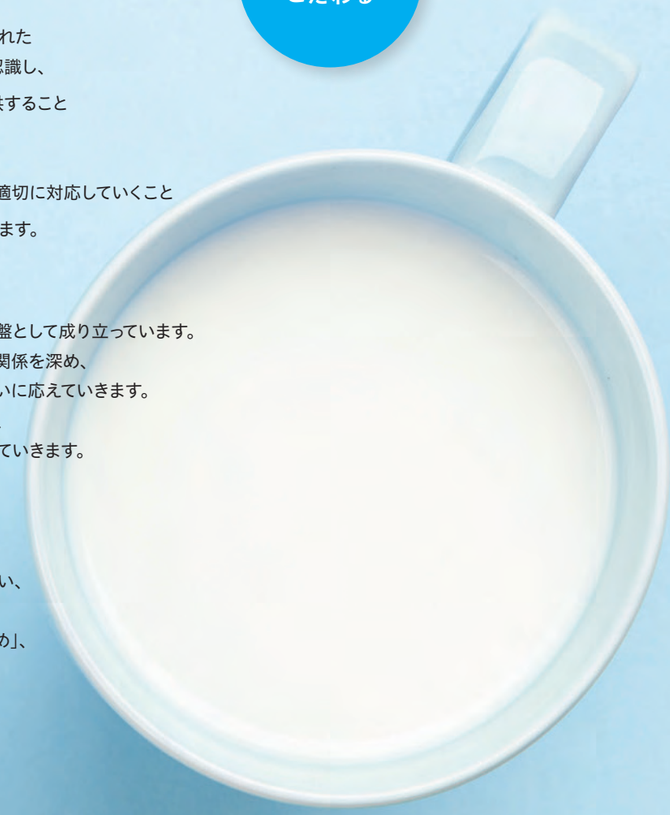
を基本姿勢として、消費者重視経営を実践していきます。

酪農生産への貢献

私たち雪印メグミルクグループは、日本の酪農を基盤として成り立っています。
私たちは、酪農生産者の良きパートナーとして信頼関係を深め、
乳の価値をしっかりと伝えていくことで生産者の想いに応えていきます。
そして、牛乳・乳製品の需要拡大を実現することで、
国内酪農生産の基盤の強化と持続的発展に貢献していきます。

乳（ミルク）にこだわる

私たち雪印メグミルクグループは、
ミルクの持つ無限の可能性を信じ、ミルクに向き合い、
ミルクにこだわり続けることで、
ミルクの持つ可能性を「深め」、ミルクの価値を「高め」、
世界に「拡げていく」ことを実現していきます。



コーポレートスローガン

未来は、ミルクの中にある。

雪印メグミルクグループ 企業行動憲章

社会からの様々な要請に応え、CSR経営をより一層進めていくための理念・基本的な考え方を体系化した「雪印メグミルクグループ 企業行動憲章」を制定しました。

雪印メグミルクグループ 企業行動憲章制定にあたり

雪印メグミルク株式会社の前身の一つである雪印乳業株式会社の始まりは、1925年(大正14年)、酪農家による酪農家のための生産組織「有限責任 北海道製酪販売組合」の設立にあります。創業者達は、「酪農は大地の力を豊かにし、その豊かな大地から生み出された牛乳・乳製品は、最高の栄養食品として、健やかな精神と強靭な身体を育む。」という崇高な理想「健土健民」を掲げ出発しました。

以来、酪農とともに歩みを進め、牛乳・乳製品を中心に多角化を図り、日本を代表する総合食品メーカーへと成長を遂げました。しかし、2000年の食中毒事件、2002年の牛肉偽装事件という2つの大きな事件により、それまでに築いてきた消費者の信頼を失い、会社存亡の危機に陥りました。私たちは、酪農生産者、関係行政、取引先など、関係者の支援のもと、再建に向けた幾多の試練を乗り越え、2009年10月、日本ミルクコミュニティ株式会社と雪印乳業株式会社を経営統合するために共同持株会社 雪印メグミルク株式会社を設立しました。そして、2011年4月に3社が合併し、現在の雪印メグミルク株式会社が誕生しました。

雪印メグミルクグループの企業理念は、「『消費者重視経営の実践』『酪農生産への貢献』『乳(ミルク)にこだわる』の3つの使命を果たし、ミルクの新しい価値を創造することにより、社会に貢献する企業であり続けます。」でありま す。そして「未来は、ミルクの中にある。」のコーポレートスローガンにその想いが込められています。雪印乳業の創業の精神である「健土健民」は、雪印メグミルクグループの企業理念の原点としてしっかりと受け継いでいかなければなりません。その上で、2つの事件への反省を胸に、未来を見据えた責任ある企業でありたいと考えています。

現在、私たちを取り巻く社会は、地球温暖化など環境問題の深刻化、貧困や格差の拡大、人権問題の広がりなど、多くの社会課題を抱えています。私たちは、酪農乳業という事業を通じて社会課題の解決を図り、健全で豊かな環境を保全し、将来世代にも継承することができる持続可能な社会の構築を目指します。私たち雪印メグミルクグループは、その実現に向けた行動の規範として、ここに「雪印メグミルクグループ 企業行動憲章」を制定いたします。

2021年6月1日
雪印メグミルク株式会社 代表取締役社長
西尾 啓治

雪印メグミルクグループ 企業行動憲章

雪印メグミルクグループは、サプライチェーンのすべての段階において、「雪印メグミルクグループ 企業行動憲章」に基づき、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守し、高い倫理観のもと公正かつ誠実に行動していきます。

1. 持続可能な企業価値の向上と社会課題の解決
私たち雪印メグミルクグループは、雪印メグミルクグループの企業理念を実現するため、事業活動を通じて、企業価値の向上に努めるとともに、社会課題の解決を図ることにより持続可能な社会の発展に貢献します。

2. 消費者との信頼関係
私たち雪印メグミルクグループは、品質管理を徹底し、社会に有用で安全な商品・サービスをお届けします。また、消費者基本法に基づく「消費者の権利」と「事業者の責務」を認識し、商品・サービスに関する適切な情報提供や誠実なコミュニケーションを行い、消費者の満足と信頼を獲得します。万が一提供した商品に事故が発生した場合は、消費者の安全を最優先に考えて適切に対応します。

3. 公正な事業活動
私たち雪印メグミルクグループは、高い倫理観と責任感を持って、企業倫理(コンプライアンス)を遵守し、その徹底を図り、公正で透明かつ自由な競争に基づく事業活動を行います。また、反社会的勢力との取引・交友など一切の関係を持ちません。

4. 公正な情報開示、ステークホルダーとの対話
私たち雪印メグミルクグループは、消費者、酪農生産者、株主をはじめとするすべてのステークホルダーの理解と信頼が得られるように、企業情報を積極的、効果的かつ適時、適切に開示します。また、企業価値の向上を図るためにステークホルダーとの継続的な対話を通じて透明性のある経営を実践します。

5. 働き方の改革と職場環境の充実
私たち雪印メグミルクグループは、従業員の能力を高め、人格、多様性、個性を尊重する働き方を実現します。また、自由と活気に満ちた企業風土を構築し、健康と安全に配慮した、働きがいのある職場環境を整備していきます。

6. 環境問題への取組み
私たち雪印メグミルクグループは、気候変動への対応、水資源の有効活用、廃棄物の適正管理をはじめとした環境問題を人類共通の課題としてとらえ、サプライチェーンを通じて自然にやさしい技術・商品・サービスを開発していくことで、環境保全に取り組みます。

7. 人権の尊重
私たち雪印メグミルクグループは、サプライチェーンを通じて、基本的人権を尊重し、人種、国籍、性別、宗教、思想などの違いによる差別の禁止や、強制労働、人身売買、児童労働などの不当な扱いの禁止、安全かつ健康的な労働環境の提供などの取組みを進めます。

8. 危機管理の徹底
私たち雪印メグミルクグループは、平時より緊急事態が発生した場合のことを想定した準備を怠りません。火災や天災、事故などといった緊急事態が発生した場合は、人命を優先した上で、事業活動の維持継続・早期復旧に努めます。また、会社の財産を大切にし、個人情報をはじめとする機密情報を厳重に管理します。

9. 地域社会とのパートナーシップ
私たち雪印メグミルクグループは、「良き企業市民」として、すべての事業所において、積極的に社会に参画し、コミュニケーションを図ることで、信頼の絆をつくり地域社会の発展に貢献します。

10. 本憲章の徹底
雪印メグミルクグループの経営に携わる者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であると認識し、グループ企業内への徹底を自ら率先して行います。あわせて、サプライチェーンにかかわるすべての人に本憲章の精神に基づく行動を促します。

創業時から引き継ぐパイオニア精神が、進化を導き、未来を創る

「北海道製酪販売組合」の創業者たち

宇都宮 仙太郎　黒澤 酉蔵　佐藤 善七

1925年～

酪農のために立ち上がった創業期

北海道に酪農を根付かせることに尽力した創業者たち。関東大震災後の食料政策により、窮地に立った北海道の酪農を救うため、1925年酪農生産者による組織「北海道製酪販売組合」を創業しました。これが雪印メグミルクの前身の一つです。1926年に近代的工場ができてから、本格的に「雪印北海道バター」の製造販売をスタートしました。

1930年～

多くのロングセラー商品が誕生

バターの製造販売を開始した後に、赤ちゃん用粉ミルク、マーガリン、チーズなどの製造販売を本格的にスタートしました。この頃に誕生した商品は、今日まで愛され続け、数多くのロングセラーとなっています。

雪印乳業
食中毒事件

雪印食品
牛肉偽装事件

2000年
2002年

2つの事件

2000年と2002年に「雪印グループ」は、食の安全・安心を揺るがす2つの事件により、消費者の信頼を失いました。企業の存亡の危機に直面し、再建のために事業分割などを行いました。P.66

雪印メグミルク

2009～2011年

経営統合・合併

多くの支援を受け、お客様の信頼回復を第一に、再建を目指してきました。そして、2009年に「雪印乳業(株)」と「日本ミルクコミュニティ(株)」が経営統合し、共同持株会社「雪印メグミルク(株)」を設立。2011年には雪印メグミルクが「日本ミルクコミュニティ」と「雪印乳業」を吸収合併、「雪印メグミルク」として新たなスタートを切りました。先人たちが残した技術や酪農・食への思いと、2つの事件の反省と教訓を活かしながら、持続的な成長の基礎を築いてきました。

2017年～

ミルク未来創造企業へ

過去から変わらぬ乳(ミルク)へのこだわりと技術、そして、企業として持続的な成長を目指し、お客様の健康を考えた商品づくりをしてきました。今後も、商品を通じて社会に貢献し、更なる成長を果たしていきます。

▶ 雪印メグミルクの設立経緯

ミルク未来創造企業

Transformation & Renewal
「変革」、そして更なる「進化」へ

雪印メグミルクグループは、2017年、10年後の目指す姿として「グループ長期ビジョン 2026」を策定しました。その中で、すべての活動の基軸となる「グループ企業理念」を踏まえ、消費者・酪農生産者・社員の視点からそれぞれ“3つの未来”を描き、「ミルク未来創造企業」と名づけました。私たちは、「変革」「進化」を遂げ、新たな時代を築くべく、活動をしていきます。また、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、グループ全体で事業を通じて貢献していきます。

［3つの未来］

酪農生産者の未来に貢献します。

酪農生産者とともにミルクの価値を高めることで、持続的な成長を実現します。更に、良きパートナーとして、酪農・乳業の持続可能な成長へ貢献を続けます。

乳（ミルク）で食の未来を創造します。

雪印メグミルクグループの強みを作り、活かし、価値を創造・提供します。更に、乳（ミルク）の持つ無限の可能性を引き出し、ものづくりを通じて、世界の人々に食の喜びを提供し続けます。

私たち社員の未来を拓きます。

人が企業を育て、企業も人を育てることを踏まえ、多様な人材が希望と誇りを持って、それぞれの個性と能力を最大限に発揮しながら、成長し続ける企業グループを目指します。

▶ 消費者基本法を根幹とした 消費者重視経営

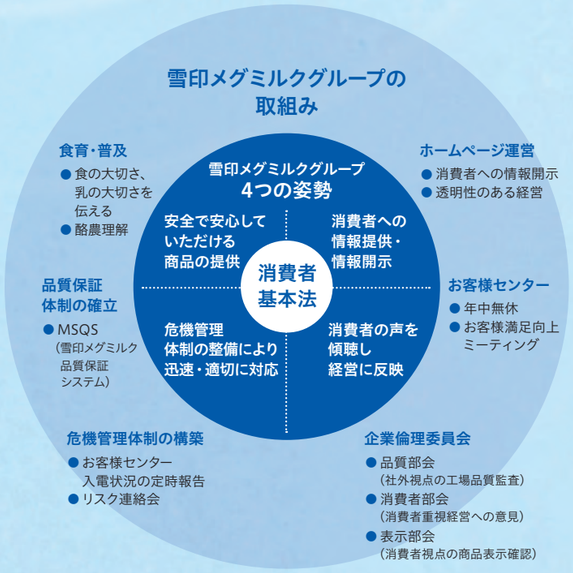
消費者基本法に定められた「消費者の『8つ』の権利」に向き合い、「事業者の『5つ』の責務等」を果たすために、雪印メグミルクグループでは「4つの姿勢」に基づき取り組みます。

消費者基本法

消費者の『8つ』の権利	事業者の『5つ』の責務等
1. 国民の消費生活における基本的な需要が満たされ、 2. その健全な生活環境が確保される中で、 3. 消費者の安全が確保され、 4. 商品及び役務について消費者の自主的かつ合理的な選択の機会が確保され、 5. 消費者に対し必要な情報及び 6. 教育の機会が提供され、 7. 消費者の意見が消費者政策に反映され、 8. 並びに消費者に被害が生じた場合には適切かつ迅速に救済されること	1. 消費者の安全及び消費者との取引における公正を確保すること。 2. 消費者に対し必要な情報を明確かつ平易に提供すること。 3. 消費者との取引に際して、消費者の知識、経験及び財産の状況等に配慮すること。 4. 消費者との間に生じた苦情を適切かつ迅速に処理するために必要な体制の整備等に努め、当該苦情を適切に処理すること。 5. 国又は地方公共団体が実施する消費者政策に協力すること。

向き合う

※条文の内容をわかりやすくするために、数字をつけ表記



▶ SDGs達成への貢献

SDGs（持続可能な開発目標）は、2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な世界を実現するための国際目標です。“2030年までに貧困に終止符を打ち、持続可能な未来を追求しよう”とのスローガンのもと、17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。雪印メグミルクグループは、CSR重要課題（マテリアリティ）の解決とともにSDGs達成に貢献していきます。

CSR重要課題（マテリアリティ） P.43

（出典）国連広報センター